

# 新建築

SHINKENCHIKU:2002

8



# Bougainvillea Chapel

設計 リカルド トッサーニ アーキテクチャー

施工 住友建設

所在地 アメリカ グアム島

BOUGAINVILLEA CHAPEL

architects: RICCARDO TOSSANI ARCHITECTURE



# Bougainvillea Chapel

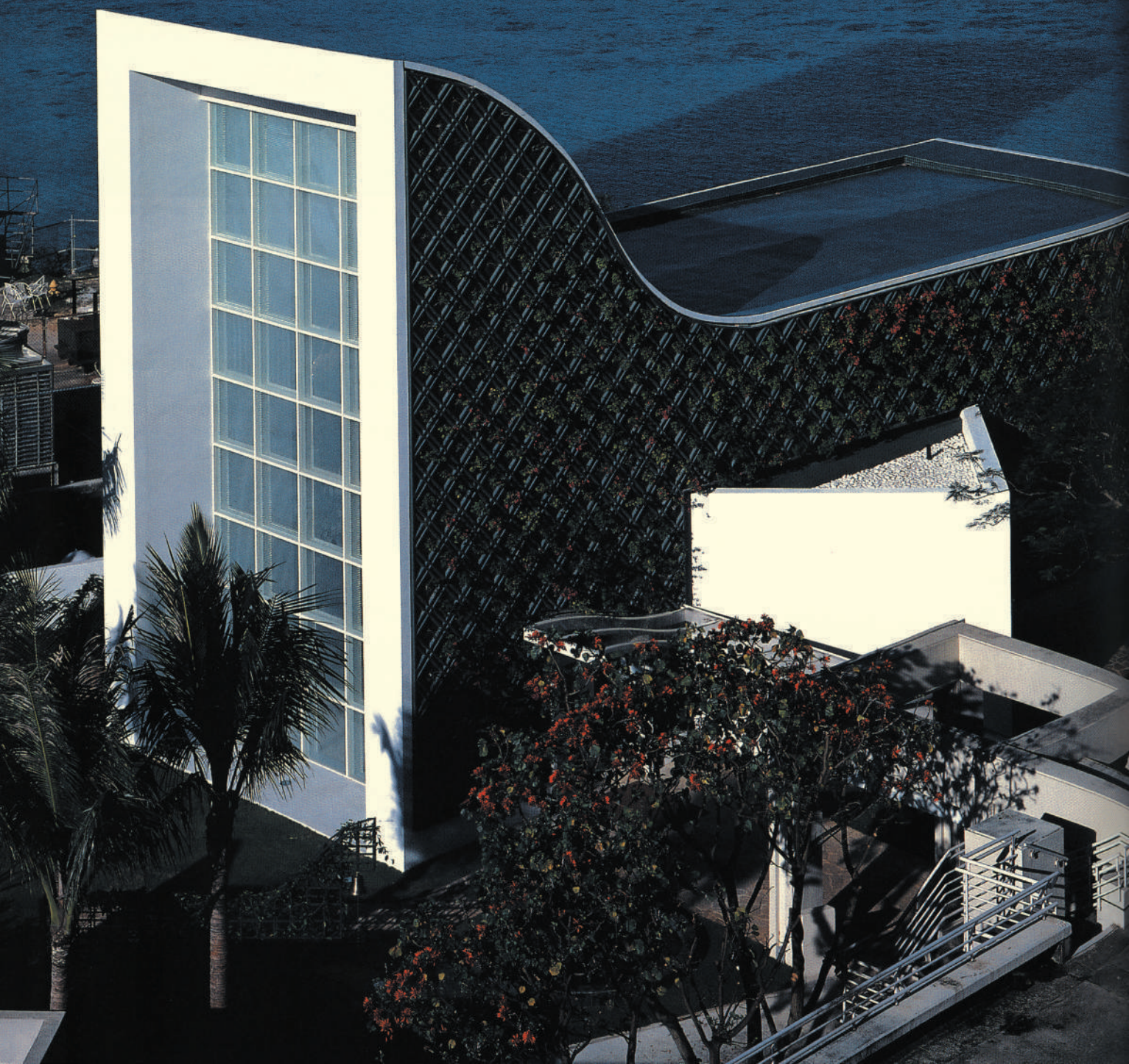
設計 リカルド トッサーニ アーキテクチャー

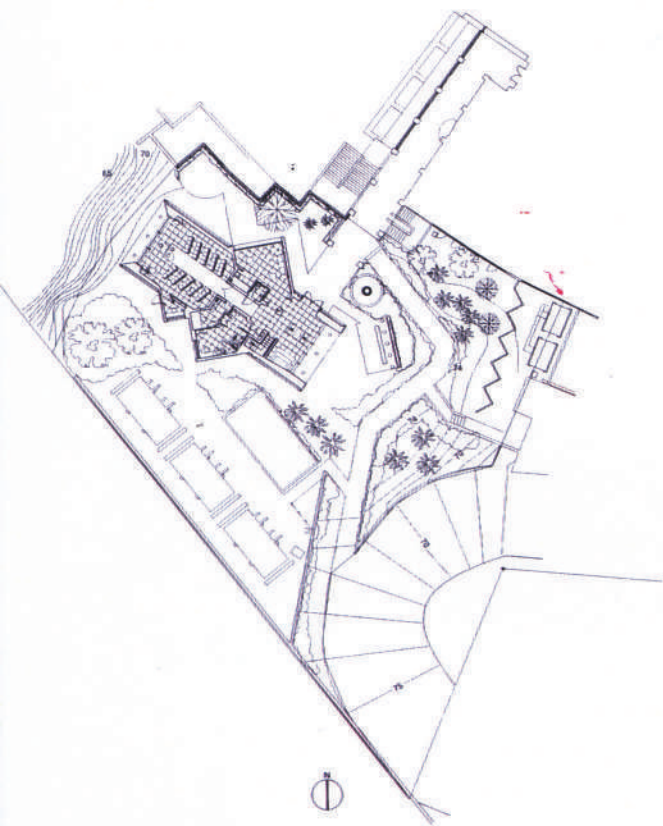
施工 住友建設

所在地 アメリカ グアム島

BOUGAINVILLEA CHAPEL

architects: RICCARDO TOSSANI ARCHITECTURE

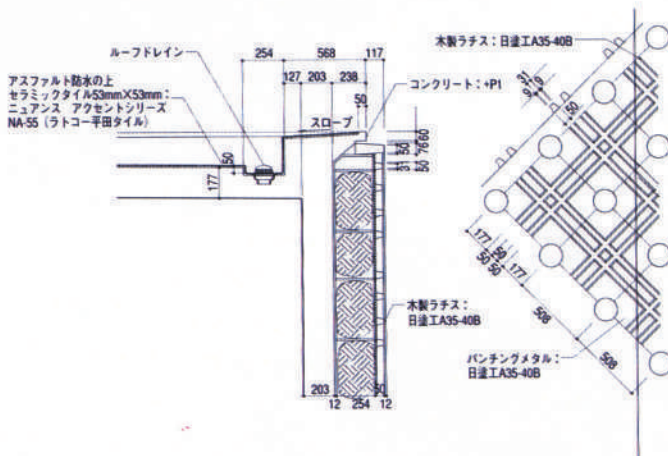




配置平面 縮尺1/800

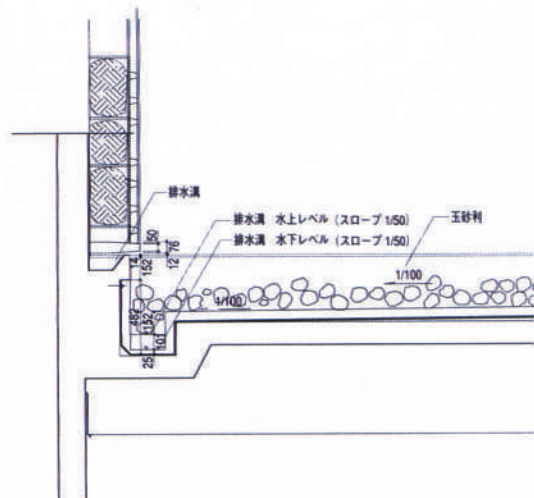
壁面緑化には、ランドスケープの白い花々の植栽との対比を意図し、マゼンタ色のブーゲンビリアを選んだ。土壌を入れた専用の植栽袋にブーゲンビリアを1株ずつ植え、それを建物壁面の木製格子欄干に配列し、表面からパンチングメタルと木製ラチスで固定している。給・排水は、ラチスの背部・建物下部の幅木背部に隠蔽した。ブーゲンビリアウォールがより自然に溶け込むよう、ラチスをオリーブグリーン色とした。(リカルド トッサニー/清水肇訳)

194頁：チャペル全景。北西と南東の壁面がブーゲンビリアで緑化されている。/195頁：壁面ディテール。/撮影：奥村浩司。



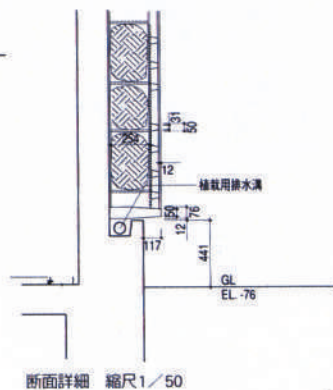
ブーゲンビリアチャペルは、伝統的な教会建築のタイポロジカルな要素を現代的手法で再構築し、教会建築の荘厳さ・光・神秘・ロマンスといったノスタルジックな記憶をその平面や建築のフォルムに秘めた建築である。伝統的な様式の表現を抑えることによって、訪れる人びとの多種多様な宗教背景や慣習に対し敬意を払った。この建物のもっとも重要な特徴は、大きな側壁がブーゲンビリアで埋め尽くされていることである。私は、建築とそれを取り囲む環境の間には境界線はないと考えている。この概念はアーネスト・ネイサン・ロジャースが「家具デザインと都市計画はモダンアーキテクトの活動の両極である」と表現し、またルネッサンス時代の建築家がさまざまな分野のデザインに対して重要な役割を果たしたことに一致している。今回も今までのプロジェクト同様、ドアハンドルからランドスケープに至るチャペルのあらゆる要素をデザインした。教会建築を構成する要素（鐘楼・バラ窓・十字架・前室・クワイア・身廊・祭壇）を十字架形プランに配置し、鐘楼は空へとせり上がった屋根とロビー天井で表現され、バラ窓・十字架は格子組のカーテンウォールとストライプ模様のエッチングガラスによって暗示した。チャペルは太平洋に面した

タモンベイを見下ろす約20mの崖に位置し、その軸線はオーシャンビューにフォーカスするよう試みた。内部は長い側壁と高い天井が、外部はブーゲンビリアウォールが軸線を強調している。隣接するホテルタワーからの見えがかりを配慮し、ドラマティックな曲面を描いた建物の屋根の仕上げはダークグリーンのタイル貼りとし、低層部の屋根には白い玉砂利を使用した。また、チャペルとホテルタワーを結ぶ通路は、ブーゲンビリアウォールを見上げられる透明なキャノピーを架け、スコールにも配慮した。ブーゲンビリアチャペルは、南国の美しい大自然に寄与する神秘的かつ詩的な建築を目指した作品である。(リカルド トッサニー/清水肇訳)



設計 建築 リカルド トッサニー アーキテクチャー  
設計協力 Ari Partners architecture+  
構造 GK2 Inc.Consulting Engineers  
設備 Wixon & Associates (電気)  
WM Engineering Services (設備)

施工 住友建設  
敷地面積 1,563m<sup>2</sup>  
建築面積 167m<sup>2</sup>  
延床面積 200m<sup>2</sup>  
階数 地上1階+メザニン  
構造 鉄筋コンクリート造  
工期 2001年5月~2002年10月



断面詳細 縮尺1/50